

# 教育研究業績書

2025年10月20日

所属：薬学科

資格：教授

氏名：栗原 晶子

研究分野		研究内容のキーワード	
医療薬学		がん治療、医薬品適正使用	
学位		最終学歴	
博士（薬学）、修士（薬学）、学士（薬学）		神戸薬科大学大学院 医療薬科学専攻 修士課程 修了	
教育上の能力に関する事項			
事項		年月日	概要
1 教育方法の実践例			
1. 卒業研究指導	2009年～現在	卒業研究では、医薬品の安全性確保に貢献し質の高い薬物療法の提供を目的とした実践的臨床薬学的研究を実施している。	
2. 研究室配属学生を対象とした医薬品情報収集・評価に関する演習	2009年～現在	研究室配属学生を対象として医薬品情報の収集・評価・伝達方法を演習として学ぶ機会を設け、実際に医療現場で役立つスキル習得に向けた訓練を行っている。また、実在する処方を用いた処方監査演習を実施し、医療現場で必要不可欠となる気づき、勘の養成を目指している。	
3. 担当科目 授業方法の工夫	2009年～2014年度	「薬剤師の活躍分野をみるⅠ（1年次）」 新たな取り組みとして、体験学習で学んだ事項に関するSGDを実施し、その内容を基にプロダクトを作成、学内での発表会を実施して従来の科目をより充実させた。また、学生がSGDでまとめたプロダクトを報告書として取りまとめ、体験学習実施施設（病院、薬局、福祉施設等）へ送付する試みを始めた。	
4. 担当科目 授業方法の工夫	2011年度～現在	「薬学臨床実習概論（4年次）」、「医薬品情報学（4年次）」、「医療コミュニケーション（4年次）」、「臨床薬学基本実習Ⅰ（4年次）」、「臨床薬学基本実習Ⅱ（4年次）」 （講義科目） 補足説明用補助プリントを作成するとともに、講義内に実例や自身の体験事例を折込み、医療現場を知らない学生がイメージしやすいよう意識している。授業アンケートでは、補助プリントや実例を交えた解説が好評であった。 （実習科目） 少人数グループ制での指導を導入し、毎回の実習終了時に学生同士の相互チェックや教員による個別チェックを行い、改善点等をフィードバックし、個々の理解・修得度の確認を行っている。また、実習終了時に担当教員全員を動員した実技試験を行い、改善点等を個々にフィードバックしている。学生同士・教員による個別チェックによって自らの習得度を確認できたと、学生の満足感を得ることができた。	
2 作成した教科書、教材			
1. グラフィックガイド薬剤師の技能 第二版	2018年3月16日	薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版に対応した臨床準備教育に利用される書籍であり、複数の大学の科目担当教員と分担執筆した。	
2. 医薬品情報学（廣川書店）	2017年	薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に伴い、他大学の科目担当教員と協議のうえ改訂した。第11章と12章を分担執筆した。	
3. ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション（南山堂）	2014年	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修、新薬学教育モデル・コアカリキュラムの内容を含む書籍であり、医療人としての接遇に関する項目を分担執筆した。	
4. 医薬品情報学（廣川書店）	2011年	薬学教育モデル・コアカリキュラム、実務実習モデル・コアカリキュラム対応の教科書であり、半期（15回）の講義で漏れなく学習できるよう複数の大学の科目担当教員と協議して作成した。第11章と12章を分担	

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
5. 臨床薬学基本実習（プレファーマシー実習）Ⅰ・Ⅱ テキストおよび臨床薬学基本実習（プレファーマシー実習）Ⅰ・Ⅱ記録・課題	2009年～現在	執筆した。 薬剤師業務に必要な基本的知識・技能・態度を全学生が修得できることを目標とし、自らの実務経験を活かして実習テキストと課題帳の企画・作成に中心となって取り組んだ。また、アドバンストな内容も網羅するよう配慮するとともに、医療現場の変遷に合わせて毎年改訂を行っている。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 病院が受け入れた実習生（5年生）に対する指導	2010年～現在	医療従事している病院で実習中の薬学部5年生（長期実務実習生）に対して指導薬剤師と協力して実習指導を行っている。
2. 事前学習企画運営（OSCEを含む）、OSCE実施委員としての参画	2008年～現在	自身の医療現場での経験を活かして、本学の事前学習の企画、OSCEの企画に携わっている。
4 その他		
1. 大学教育に関する団体等の活動	2024年3月10日	薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）に対応したOSCE検討ワークショップ第2回に参加し、全国の薬学部OSCE実施責任者と共に第1回ワークショップに続いて新カリキュラム対応OSCE課題作成に参加し検討を重ねた。
2. 大学教育に関する団体等の活動	2023年9月3日	薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度版）に対応したOSCE検討ワークショップ第1回に参加し、全国の薬学部OSCE実施責任者と共に新カリキュラムに対応したOSCE課題の検討を行った。
3. 大学教育に関する団体等の活動	2017年8月5日～7日	日本薬学会第3回若手薬学教育者のためのアドバンストワークショップ「卒業時における教育の質保証～卒業時に求められる資質・能力とその評価を考える～」に参加した。
4. 大学教育に関する団体等の活動	2014年11月9日	医療人養成としての薬学教育に関するワークショップ～医療人養成のための薬学教育に必要なコミュニケーション教育および心理学・行動科学教育～に参加した。
5. 総合演習Ⅱ試験検討委員として問題作成および編集	2011年～2018年度	学内教員が協力して作成する総合演習Ⅱ試験について、実務系問題を他の実務系教員と協力して作問し、系のとりまとめを行っている。国家試験を視野に入れ、受験学生の学力向上に繋がるような内容となるよう配慮のうえ、各系委員と協力して作成・編集している。
6. 薬学講座企画運営委員として、本学卒業後教育講座（薬学講座）の運営	2010年～現在	年間5講座開催される薬剤師を対象とした薬学講座について、参加者の意向を汲みつつ、最近の医療現場の話題や薬剤師に必要な知識の提供を視野に入れ、委員全員で協力して企画運営している。
7. 大学教育に関する団体等の活動	2008年12月26日	SP参加型演習に関するワークショップフォーラム（日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会、薬学共用センター、薬学協議会共催）に参加した。
8. 大学教育に関する団体等の活動	2008年9月7日	平成20年度薬学共用試験OSCE標準模擬患者（SP）養成講習会に参加した。
9. 学生の勉学・進路等への対応	2008年～現在	主に卒業研究担当の研究室所属学生に対して、薬剤師国家試験対策のための学習指導および医療現場を中心とした進路（就職）支援を行っている。
10. 担任業務	2023年度～現在	薬学科Aクラスの担任として、約40名のクラス学生に対して初期演習等を通して、大学生としての自覚、薬学生としての勉学の姿勢等を指導している。
11. 担任業務	2011～2022年度	薬学科Bクラスの担任として、約50名のクラス学生に対して学生生活や学習支援を行った。特に、高学年時には共用試験合格および国家試験合格を目指し、学生個々の精神的サポートに努めた。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
1 資格、免許				
1. 日本医療薬学会医療薬学指導薬剤師（旧；日本医療薬学会指導薬剤師）	2010年12月～現在	第13-10-2016号		
2. 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師（旧；日本医療薬学会認定薬剤師）	2008年1月～現在	第13-08-0025号		
3. 日本薬剤師研修センター実務研修指導薬剤師	2007年04月	No. 3A-2007-28-0104		
4. 日本病院薬剤師会実務実習指導薬剤師	2005年12月	No. 12020		
5. 日本病院薬剤師会生涯研修履修薬剤師	2005年07月～現在	No. 2539-2		
6. 薬剤師免許	1995年5月	No. 301035		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
1. 神戸大学医学部附属病院 医療従事許可	2008年～現在	実務経験を教育・研究に活かすための知識・技能維持・向上のため、病院薬剤師として医療に従事している（研究日を利用）。		
4 その他				
1. 高校への出張講義	2025年8月29日	職業人講話（プロフェッショナルズに聴く）（奈良県立郡山高等学校）		
2. 高校への出張講義	2023年3月16日	分野・職業別ガイダンス（兵庫県立尼崎北高等学校；兵庫）		
3. 高校への出張講義	2018年12月18日	出張講義（兵庫県立宝塚西高等学校；兵庫）		
4. その他	2017年4月16日	奈良県薬剤師会アドバンスワークショップに参加		
5. オープンキャンパス企画運営	2017年度～2018年度	学部広報委員（オープンキャンパス担当）として、年間5回実施されるオープンキャンパスの薬学部での実施内容を企画し、他の委員と協力して運営している。		
6. 指定校訪問	2017年・2018年度	学部募集対策委員として指定校を訪問し、本学の特長や薬学部の教育方針等を説明した。		
7. その他	2016年9月3日・4日	第83回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（事務局として参加）		
8. 高校への出張講義	2016年7月12日	分野別説明会（兵庫県立東播磨高等学校；兵庫）		
9. その他	2015年7月19日・20日	第78回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）		
10. 高校への出張講義	2015年7月13日	分野別説明会（兵庫県立尼崎北高等学校；兵庫		
11. その他	2014年9月14日・15日	第74回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）		
12. その他	2014年8月30日・31日	第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（事務局として参加）		
13. 高校への出張講義	2014年3月10日	分野別説明会（私立仁川学院高等学校；兵庫）		
14. その他	2013年8月24日・25日	第69回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（タスクフォースとして参加）		
15. 高校への出張講義	2012年9月26日	分野別模擬授業（大阪薫英女学院高等学校；大阪）		
16. 教育懇談会における個別面談の実施	2011年度～現在	地域別教育懇談会に参加された担任学生の保護者のうち個別面談希望者に対して、個々の学生生活や学習状況について情報共有するとともに、家庭での学生支援をお願いしている。		
17. 高校への出張講義	2010年11月16日	出張講義（大阪薫英女学院高等学校；大阪）		
18. その他	2010年6月11日・12日	第17回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップin近畿（参加）		
19. 高校への出張講義	2009年1月22日	出張講義（愛徳学園高等学校；兵庫）		
20. 学内委員		・ OSCE企画運営委員長（2018・2021年度～現在） ・ 長期実務実習委員（2008年度～現在） ・ カリキュラム検討委員（薬学）（2015年度～現在）  ・ 薬学講座企画運営委員（2008年度～現在） ・ 薬学科教務委員（2019・2020年度）		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. グラフィックガイド 薬剤師の技能 第二版	共	2018年3月 16日	京都廣川書店	第9章持参薬監査 (pp.91-98) 荒川行生、飯原なおみ、石渡俊二、井上知美、大鳥徹、岡野友信、恩田光子、角本幹夫、片岡和三郎、北小路学、 <u>薬原晶子</u> 、小竹武、高田充隆、中妻章、二宮昌樹、廣谷芳彦、藤本麻依、細見光一、森山雅弘 薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版に対応した臨床準備教育に利用される書籍
2. 医薬品情報学	共	2017年5月 15日	廣川書店	第11章テーラーメイド薬物療法 (pp.177~208)、第12章医療現場での医薬品情報の活用 (pp.209~213) 荒川一郎、大野恵子、片岡和三郎、岸野史志、 <u>薬原晶子</u> 、柴田敏之、炭昌樹、寺田智祐、中村光浩、橋詰勉、橋本保彦、土生康司、名徳倫明 薬学教育モデル・コアカリキュラム平成25年度改訂版のE3のうち上記範囲について概説した。
3. ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション	共	2014年4月	南山堂	接遇の基本 pp. 57-62 <u>薬原晶子</u> 他、後藤恵子、井手口直子編 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修、新薬学教育モデル・コアカリキュラム (2015年度施行) の内容を含む書籍
4. Advances in Medicine and Biology	共	2013年3月	NOVA Science Publisher	Pharmacokinetically-guided chemotherapy with Fluorouracil, PP.83-106 <u>A. Kuwahara</u> and T. Sakaeda フルオロウラシルの薬物動態に基づき、フルオロウラシルをキードラッグとする化学療法について解説した。
5. 医薬品情報学	共	2011年01月	廣川書店	第11章テーラーメイド薬物療法、第12章医療現場での医薬品情報の活用、pp.165-201 大野恵子、小川雅史、片岡和三郎、岸野史志、 <u>薬原晶子</u> 、柴田敏之、田中良子、谷藤亜希子、中村光浩、橋詰勉、橋本保彦、平井みどり、平野剛 薬学教育モデル・コアカリキュラムC15 (薬物治療に役立つ情報) の上記範囲について概説した。
6. 第十六改正日本薬局方解説書以降、第十七改正、第十八改正	共	2011年～	廣川書店	<u>薬原晶子</u> 、柴田敏之 第十六改正日本薬局方収載医薬品1488品目の医薬品各条 (pp.1-5397) の「適用」を担当執筆した。 以降、第十七改正・追補、第十八改正・追補、継続して医薬品各条の「適用」を担当執筆した。
7. 実務実習事前学習のための調剤学計算ドリル	共	2010年03月	廣川書店	厚田幸一郎、畝崎榮、長田孝司、角山香織、 <u>薬原晶子</u> 、小林大介、柴田敏之、土屋雅勇、西口工司、廣谷芳彦、細谷治、山村恵子、山森元博 計数調剤、計量調剤、注射剤調剤における調剤量計算力を身につける演習用ドリル
8. 眼科プラクティス 2 3 眼科薬物治療A to Z	共	2008年09月	文光堂	IX薬物開発と関連法規 (6医薬品情報の入手方法) pp.617 <u>薬原晶子</u> 、根木昭他 薬物治療を行う際に知っておくべき医薬品情報の入手方法を簡潔にまとめた。
9. 医療薬学第4版	共	2005年08月	廣川書店	第6章服薬指導 6-5服薬指導と臨床検査 pp.201-212 <u>薬原晶子</u> 、柴田敏之 薬剤師が服薬指導を行うために必要な臨床検査値について説明した。
10. 医療薬学第4版	共	2005年08月	廣川書店	第6章服薬指導 6-2入院患者に対する服薬指導 pp.163-185 角山香織、 <u>薬原晶子</u> 、柴田敏之 入院患者に対する服薬指導について、注意事項等をまじえながらポイントを説明した。
<b>2 学位論文</b>				
1. フルオロウラシル血漿中濃度モニタリングに基づく食道がん化学放射線療法の適正化	単	2011年03月		
<b>3 学術論文</b>				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1.錠剤粉碎方法の違いによる粉碎後に製した散剤の分割分包精度に関する検討（査読付）	共	2023年12月	日本地域薬局薬学会誌	辻本勉、溝渕晴菜、木佐木里穂、岡田瑞希、合田泰志、 <u>薬原晶子</u> 、田内義彦
2.肥満改善薬使用に関する社会的傾向と薬学部生の認識（査読付）	共	2022年1月	医療薬学	北山友也、西村奏咲、 <u>薬原晶子</u>
3.インスリングルルギン製剤における先行およびバイオ後続品の高温環境下での含量変化から見た物理的性質の検討（査読付）	共	2021年10月	くすりとう糖尿病	辻本勉、田崎眞生、井上智咲、濱宏仁、大川恭子、豊原朋子、 <u>薬原晶子</u>
4. IGF-1 regulate the expression of uncoupling protein 2 via FOXO1.（査読付）	共	2020年3月	Growth Factors	Y. Watamoto, K. Futawaka, M. Hayashi, M. Matsushita, M. Mitsutani, Song Z, R. Koyama, Y. Fukuda, A. Nushida, S. Nezu, <u>A. Kuwahara</u> , K. Kataoka, T. Tagami, K. Moriyama.
5.全自動錠剤ハーフカッターカセットの導入による調剤業務の効率性および経済性に関する検討（査読付）	共	2019年6月	日本病院薬剤師会雑誌、55(6)643-648.	澤田由記美、山下和彦、榎本大智、久米学、 <u>薬原晶子</u> 、大本暢子、平井みどり、矢野育子
6. Insulin-like growth factor-1 directly mediates expression of mitochondrial uncoupling protein 3 via forkhead box 04.（査読付）	共	2019年6月	Growth Horm IGF Res.	Y. Watamoto, K. Futawaka, M. Hayashi, M. Matsushita, M. Mitsutani, K. Murakami, Z. Song, R. Koyama, Y. Fukuda, A. Nushida, S. Nezu, <u>A. Kuwahara</u> , K. Kataoka, T. Tagami, K. Moriyama
7. Association between circadian and chemotherapeutic cycle effects on plasma concentration of 5 fluorouracil and the clinical outcome following definitive 5 fluorouracil/ cisplatin based chemoradiotherapy in patients with esophageal squamous cell carcinoma.（査読付）	共	2018年11月	Oncology letters, 17: 668-675 (2019)	<u>A. Kuwahara</u> , S. Kobuchi and T. Tamura
8.敗血症患者におけるアジスロマイシン持続投与後の体内動態および基礎的検討	共	2017年12月	TDM研究、34(4) 119-125、2017.	河淵真治、藤田章洋、伊藤由佳子、 <u>薬原晶子</u> 、中村任、安井裕之、相引眞幸、柴田敏之

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(査読有)				
9.高齢者における脂肪乳剤投与による問題点の抽出と適切な対処法への寄与を目指した多施設共同研究(査読付)	共	2017年8月	日本病院薬剤師会雑誌, 53(8)993-997.	尾濱直子、三浦誠、友澤明德、黄前尚樹、松岡加世子、 <u>薬原晶子</u> 、山森元博、角山香織、栄田敏之
10.Transport of azithromycin into extravascular space in rats. (査読付)	共	2016年11月	Antimicrob Agents Chemother., 60(11): 6823-6827.	S. Kobuchi, M. Aoki, C. Inoue, H. Murakami, <u>A. Kuwahara</u> , T. Nakamura, H. Yasui, Y. Ito, K. Takada and T. Sakaeda.
11.Lower Body Mass Index is a Risk Factor for In-Hospital Mortality of Elderly Japanese Patients Treated with Ampicillin/sulbactam. (査読付)	共	2016年10月	Int. J. Med. Sci., 13(10): 749-753.	M. Miura, <u>A. Kuwahara</u> , A. Tomozawa, N. Omae, M. Yamamori, K. Kadoyama, T. Sakaeda.
12.注射用ゲムシタピン塩酸塩製剤の安定性に関する比較検討(査読付)	共	2015年8月	医療薬学, 41(8) 550-555.	<u>薬原晶子</u> 、峯垣哲也、濱田美輝、若林未希、浅井麻佑里、大西結希、藤本美沙紀、小畑真希、小柳志織、角南博子、高松美里、綿本有希子、豊原朋子、辻本雅之、片岡和三郎、西口工司
13.Serum Lactate Dehydrogenase Levels as a Predictive Marker of Oxaliplatin-Induced Hypersensitivity Reactions in Japanese Patients with Advanced Colorectal Cancer. (査読付)	共	2014年6月	Int. J. Med. Sci., 11(6): 641-645.	K. Seki, Y. Tsuduki, T. Ioroi, M. Yamane, H. Yamauchi, Y. Shiraishi, T. Ogawa, I. Nakata, K. Nishiguchi, T. Matsubayashi, Y. Takakubo, M. Yamamori, <u>A. Kuwahara</u> , N. Okamura and T. Sakaeda.
14.Genetic polymorphisms in SLC23A2 as predictive biomarkers of severe acute toxicities after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読付)	共	2014年2月	Int. J. Med. Sci., 11(4):321-326.	T. Minegaki, <u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, T. Nakamura, T. Okuno, I. Miki, H. Omatsu, T. Tamura, M. Hirai, T. Azuma, T. Sakaeda and K. Nishiguchi
15.TNF- $\alpha$ -857C>T Genotype is Predictive of	共	2013年10月	Int. J. Med. Sci., 10(12): 1755-1760.	H. Omatsu, <u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, M. Fujita, T. Okuno, I. Miki, T. Tamura, K. Nishiguchi, N. Okamura, T. Nakamura, T. Azuma, T. Hirano, K. Ozawa and M. Hirai

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Clinical Response after Treatment with Definitive 5-Fluorouracil/cisplatin-based Chemoradiotherapy in Japanese Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. (査読付)				
16. VEGF -634C/G Genotype is Predictive of Long-term Survival after Treatment with a Definitive 5-Fluorouracil/cisplatin-based Chemoradiotherapy in Japanese Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. (査読付)	共	2012年10月	Int. J. Med. Sci., 9(10):833-837.	T. Tamura, <u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, K. Nishiguchi, T. Nakamura, T. Okuno, I. Miki, Y. Manabe, T. Sakaeda
17. THRB Genetic Polymorphisms Can Predict Severe Myelotoxicity after Definitive Chemoradiotherapy in Patients with Esophageal Squamous Cell Carcinoma. (査読付)	共	2012年9月	Int. J. Med. Sci., 9 (9): 748-756.	I. Miki, T. Nakamura, <u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, K. Nishiguchi, T. Tamura, T. Okuno, H. Omatsu, S. Mizuno, M. Hirai, T. Azuma, T. Sakaeda
18. Effects of bolus injection of 5-fluorouracil on steady-state plasma concentrations of 5-fluorouracil in Japanese patients with advanced colorectal cancer. (査読付)	共	2011年	Int. J. Med. Sci.	Tamura, T., <u>Kuwahara, A.</u> , Kadoyama, K., Yamamori, M., Nishiguchi, K., Inokuma, T., Takemoto, Y., Chayahara, N., Okuno, T., Miki, I., Fujishima, Y. and Sakaeda, T. 大腸がん化学療法において、5-fluorouracil、uracilおよびtegafurの血漿中濃度に基づき、5-fluorouracilのbolus投与の必要性を明らかにした。
19. Hypersensitivity reactions to anticancer agents: data mining of the public version of the FDA adverse event reporting system, AERS. (査読付)	共	2011年	J. Exp. Clin. Cancer Res.	Kadoyama, K., <u>Kuwahara, A.</u> , Yamamori, M., Brown, JB., Sakaeda, T. and Okuno, Y. 抗がん剤による過敏症反応の発現症例を基に、AERSシステムの利用有用性を示唆した。
20. Effects of plasma	共	2011年	J. Exp. Clin.	<u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, K. Kadoyama, K. Nishiguchi, T.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
concentrations of 5-fluorouracil on long-term survival after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読付)			Cancer Res.	Nakamura, I. Miki, T. Tamura, T. Okuno, H. Omatsu, T. Sakaeda. 食道がん化学放射線療法において、5-fluorouracil 血漿中濃度と長期予後に関する検討を行い、5-fluorouracil血漿中濃度による予後推定の可能性を示唆した。
21. スタチン系薬剤の使用に関する臨床医に対する意識調査 (査読付)	共	2010年	医薬品情報学	角山香織、 <u>栢原晶子</u> 、藤岡由夫、井上信孝、山根光量、柴田敏之、石川雄一、
22. Effect of dose-escalation of 5-fluorouracil on circadian variability of its pharmacokinetics in Japanese patients with Stage III/IVa esophageal squamous cell carcinoma. (査読付)	共	2010年	J. Med. Sci.	<u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, K. Nishiguchi, T. Okuno, N. Chayahara, I. Miki, T. Tamura, K. Kadoyama, T. Inokuma, Y. Takemoto, T. Nakamura, K. Kataoka, and T. Sakaeda.
23. TNFRSF1B A1466G genotype is predictive of clinical efficacy after treatment with a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読付)	共	2010年	J. Exp. Clin. Cancer Res.	<u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, M. Fujita, T. Okuno, T. Tamura, K. Kadoyama, N. Okamura, T. Nakamura, and T. Sakaeda.
24. 食道がん化学放射線療法における5-フルオロウラシル血漿中濃度と副作用との相関 (査読付)	共	2009年01月	TDM研究	<u>栢原晶子</u> 、山森元博、中村任、西口工司、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、片岡和三郎、柴田敏之
25. Effects of ABCB1 3435C>T genotype on serum levels of cortisol and aldosterone in women with normal menstrual cycles. (査読付)	共	2009年	Genet Mol Res.	T. Nakamura, N. Okamura, M. Yagi, H. Omatsu, M. Yamamori, <u>A. Kuwahara</u> , K. Nishiguchi, M. Horinouchi, K. Okumura, and T. Sakaeda



研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
26. Replacement of cisplatin with nedaplatin in a definitive 5-fluorouracil/cisplatin-based chemoradiotherapy in Japanese patients with esophageal squamous cell carcinoma. (査読付)	共	2009年	Int. J. Med. Sci.	<u>A. Kuwahara</u> , M. Yamamori, K. Nishiguchi, T. Okuno, N. Chayahara, I. Miki, T. Tamura, T. Inokuma, Y. Takemoto, T. Nakamura, K. Kataoka, and T. Sakaeda
27. 食道がん化学放射線療法における病期、奏効と予後との相関 (査読付)	共	2008年01月	医療薬学	薬原晶子, 山森元博, 榎本博雄, 西口工司, 八木敬子, 奥野達哉, 茶屋原菜穂子, 三木生也, 田村孝雄, 平井みどり, 柴田敏之
28. 食道がん化学放射線療法における5-フルオロウラシル血漿中濃度と治療効果との相関 (査読付)	共	2008年	TDM研究	薬原晶子, 山森元博, 門脇祐子, 八木敬子, 中村任, 奥野達哉, 茶屋原菜穂子, 三木生也,
29. VEGF T-1498C polymorphism, a predictive marker of differentiation of colorectal adenocarcinomas in Japanese. (査読付)	共	2008年	Int., J., Med., Sci.	M. Yamamori, M. Taniguchi, S. Maeda, T. Nakamura, N. Okamura, <u>A. Kuwahara</u> , K. Iwaki, T. Tamura, N. Aoyama, S. Markova, M. Kasuga, K. Okumura, and T. Sakaeda
30. VEGF G-1154A is predictive of severe acute toxicities during chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese patients. (査読付)	共	2008年	Ther., Drug Monit.	T. Sakaeda, M. Yamamori, <u>A. Kuwahara</u> , S. Hiroe, T. Nakamura, K. Okumura, T. Okuno, I. Miki,
31. Pharmacokinetics and pharmacogenomics in esophageal cancer chemoradiotherapy. (査読付)	共	2008年	Adv. Drug Deliv. Rev.	T. Sakaeda, M. Yamamori, <u>A. Kuwahara</u> , and K. Nishiguchi
32. IL-1beta genotype-related effect of prednisolone on IL-1beta production in human peripheral blood mononuclear cells under acute inflammation. (査読付)	共	2007年08月	Biol. Pharm. Bull.	S. Markova, T. Nakamura, H. Makimoto, T. Ichijima, M. Yamamori, <u>A. Kuwahara</u> , K. Iwaki, K. Nishiguchi, N. Okamura, K. Okumura and T. Sakaeda
33. Reversal Effects of Ca2+	共	2007年06月	Kobe J. Med. Sci.,	C. Komoto, T. Nakamura, M. Yamamori, N. Ohmoto, H. Kobayashi, <u>A. Kuwahara</u> , K. Nishiguchi, K. Takara, Y. Tanigawara, N. Okamura,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
antagonists on multidrug resistance via down-regulation of MDR1 mRNA. (査読付)				K.Okumura and T.Sakaeda
34.Three-dimensional, but not two-dimensional, culture results in tumor growth enhancement after exposure to anticancer drugs. (査読付)	共	2007年06月	Kobe J. Med. Sci.	C.Komoto, T.Nakamura, N.Ohmoto, H.Kobayashi, T.Yagami, K. Nishiguchi, K.Iwaki, <u>A.Kuwahara</u> , M.Yamamori, N.Okamura, K. Okumura and T.Sakaeda
35.Four Phenolics from the Cultured Lichen Mycobiont of Graphis scripta var.pulverulenta. (査読付)	共	1997年7月	Chem. Pharm. Bull	T.Tanahashi, M.Kuroishi, <u>A.Kuwahara</u> , N.Nagakura and N.Hamada
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. ベバシズマブ投与における血圧変動因子の探索	共	2024年10月5日	第74回日本薬学会関西支部総会・大会	中崎帆南、倉岡季圭、大川恭子、田内義彦、濱宏仁、辻本勉、大村友博、矢野育子、 <u>桑原晶子</u>
2. アセチルシステインがインスリンアスパルトに及ぼす影響	共	2024年10月5日	日本くすりと糖尿病学会学術集会	中川涼、植村有加里、濱宏仁、大川恭子、田内義彦、 <u>桑原晶子</u> 、辻本勉
3. 武庫川女子大学式薬育研究－衛生的な手洗い教材の開発－	共	2024年3月29日	日本薬学会第144年会	林紗希、原口珠実、吉井美奈子、 <u>桑原晶子</u> 、堀江美都里、波多江崇、吉田都
4. 次亜塩素酸ナトリウムによるシクロホスファミドの化学的分解効果の検証	共	2023年11月3日	第33回日本医療薬学会年会	田崎眞生、 <u>桑原晶子</u> 、植村有加里、大川恭子、田内義彦、辻本勉、濱、宏仁
5. 薬局実務実習に関するアンケート調査より解析されたコロナ禍の影響	共	2023年11月3日	第33回日本医療薬学会年会	宇野莉央、原口珠美、吉田都、 <u>桑原晶子</u> 、田内義彦、波多江崇
6. 病院実務実習に関するアンケート調査より解析されたコロナ禍の影響	共	2023年11月3日	第33回日本医療薬学会年会	吉田都、宇野莉央、原口珠美、 <u>桑原晶子</u> 、田内義彦、波多江崇
7. オゾンガスによる抗ガン剤分解効果の検証	共	2022年9月23日	第32回日本医療薬学会年会	田崎眞生、植村有加里、大川恭子、 <u>桑原晶子</u> 、田内義彦、辻本勉、濱、宏仁
8. 薬袋の遮光性の違いによる有効成分量の低下防止効果についての検証	共	2020年10月24日～11月1日web開催	第30回日本医療薬学会年会	井上智咲、田崎眞生、 <u>桑原晶子</u> 、豊原朋子、大川恭子、辻本勉、森良江、森本茂文、濱宏仁
9. インスリングルリグンの高温下および非遮光下における安定性に関する検討	共	2020年10月24日～11月1日web開催	第30回日本医療薬学会年会	辻本勉、井上智咲、田崎眞生、濱宏仁、大川恭子、豊原朋子、 <u>桑原晶子</u>
10. 改訂モデル・コアカリキュラムに準拠し	共	2020年10月24日～11月	第30回日本医療薬学会年会	小島穂菜美、吉田都、内田享弘、 <u>桑原晶子</u> 、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和二郎、綿本有希子、田崎眞生、波多江崇、森山賢治、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
た病院実務実習における実習生の理解度および満足度に関するアンケート解析		1日web開催		中村一基、篠塚和正
11. 学生アンケート調査に基づいた病院実務実習の内容および意義の理解度、総合評価に及ぼす要因解析	共	2019年11月2日	第29回日本医療薬学会年会	小島穂菜美、吉田都、内田享弘、 <u>桑原晶子</u> 、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和二郎、綿本有希子、田崎真生、波多江崇、森山賢治、三木知博、篠塚和正
12. 地域医療で活躍する薬剤師のための医療コミュニケーション「大学におけるコミュニケーション教育の紹介」	単	2019年10月19日	第13回日本薬局学会学術総会（大学との連携プログラム1、シンポジスト）	<u>桑原晶子</u>
13. IGF-1の抗肥満作用を標的としたシグナル伝達経路に関する基礎的検討	共	2019年3月23日	日本薬学会第139年会	綿本有希子、二若久美、林美沙、松下翠、村上佳奈、主田綾佳、根津祥子、 <u>桑原晶子</u> 、片岡和二郎、田上哲也、森山賢治
14. 長期実務実習における代表的8疾患の実施状況に関するアンケート調査解析	共	2018年11月25日	第28回日本医療薬学会年会	吉田都、内田享弘、 <u>桑原晶子</u> 、豊原朋子、片岡和二郎、原口珠実、小島穂菜美、福田侑梨子、綿本有希子、藤原由梨、波多江崇、三木知博、中林利克、篠塚和正
15. TDM対象薬拡大に向けての提言「固形がん領域における5-フルオロウラシルのTDM対象薬としての可能性」	単	2016年5月	第33回日本TDM学会・学術大会（シンポジウム2、シンポジスト）	<u>桑原晶子</u>
16. 簡易懸濁法における経腸栄養剤併用時の医薬品の安定性	共	2015年11月	第25回日本医療薬学会年会	田中扶美、藤原由梨、綿本有希子、豊原朋子、 <u>桑原晶子</u> 、上田幹子、片岡和二郎
17. 全自動錠剤ハーフカッターカセットの導入効果に関する検討	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	澤田有記美、山下和彦、 <u>桑原晶子</u> 、西岡達也、久米学、槇本博雄、平野剛、平井みどり
18. 抗精神病薬の脂質生成に関与する転写因子への影響	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	豊原朋子、安井菜穂美、高松美里、 <u>桑原晶子</u> 、根岸裕子、池田克己、片岡和二郎
19. 食道がん化学放射線療法適用後の長期予後とVEGF遺伝子型との関係	共	2013年9月	第23回日本医療薬学会年会	真鍋友紀、田村孝雄、 <u>桑原晶子</u> 、山森元博、西口工司、中村任、奥野達哉、三木生也、栄田敏之
20. PK-PD理論に基づいたPIPC-TAZ投与が高齢者の臨床検査値へ及ぼす影響	共	2013年9月	第23回日本医療薬学会年会	藤裕美、片山直子、黄前尚樹、角山香織、 <u>桑原晶子</u> 、山森元博、三浦誠、栄田敏之
21. 食道がん化学放射線療法適用後の長期予後とVEGF遺伝子型との関係	共	2013年3月	日本薬学会第133年会	真鍋友紀、田村孝雄、 <u>桑原晶子</u> 、山森元博、西口工司、中村任、奥野達哉、三木生也、栄田敏之
22. 脂肪乳剤による検査値変動について	共	2012年10月	第22回日本医療薬学会年会	片山直子、友沢明德、黄前尚樹、國仲加世子、 <u>桑原晶子</u> 、山森元博、角山香織、三浦誠、栄田敏之
23. 加圧式医薬品注入器の適正な充填方法の検討～薬液濃度均一性について～	共	2012年03月	日本薬学会第132年会	土本 寛子、 <u>桑原晶子</u> 、山田 芳菜、豊原 朋子、片岡 和二郎
24. 平成22年度武庫川女子大学長期実務実習	共	2011年10月	第21回日本医療薬学会年会	吉田都、櫛川舞、原口珠実、土本寛子、 <u>桑原晶子</u> 、豊原朋子、片岡和二郎、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川厚

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
に関するアンケート調査				
25. 食道がん化学放射線療法におけるフルオロウラシル血漿中濃度と長期予後	共	2011年10月	第21回日本医療薬学会年会	<u>栞原晶子</u> 、山森元博、三木生也、中村任、西口工司、田村孝雄、片岡和三郎、平井みどり、柴田敏之
26. 注射剤無菌調製の実務実習直前講習による教育効果	共	2011年3月	日本薬学会第131年会	土本寛子、 <u>栞原晶子</u> 、中野えり子、豊原朋子、片岡和三郎
27. 食道がん化学放射線療法における治療成績とフルオロウラシル血漿中濃度との相関	共	2011年03月	日本薬学会第131年会	<u>栞原晶子</u> 、山森元博、岡村昇、片岡和三郎、田村孝雄、柴田敏之
28. 実務実習事前学習の実施方法の評価及び教育効果～学生に対するアンケート調査を基に～	共	2010年3月	日本薬学会第130年会	土本寛子、 <u>栞原晶子</u> 、中野えり子、豊原朋子、片岡和三郎
29. 実務実習事前学習の支援を目的とした動画配信システムの構築とその効果	共	2010年3月	日本薬学会第130年会	<u>栞原晶子</u> 、藤田恵、土本寛子、中野えり子、秋好明美、片岡和三郎、内田享弘、岡村昇
30. Plasma concentration of 5-fluorouracil is predictive of clinical response after definitive chemoradiotherapy for esophageal squamous cell carcinoma in Japanese	共	2009年10月	11th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology	<u>A. Kuwahara</u> , K. Kataoka, T. Sakaeda, M. Yamamori and Takao Tamura
31. 早期体験学習における教育効果の解析～学生に対するアンケート調査を基に～	共	2009年3月	日本薬学会第129年会	<u>栞原晶子</u> 、土本寛子、富山直樹、片岡和三郎
32. 重症心身障害児・者施設における早期体験学習とその評価－学生および施設職員へのアンケート調査－	共	2009年1月	第30回日本病院薬剤師会近畿学術大会	有馬美香、大石美恵、山口みゆき、水戸敬、 <u>栞原晶子</u> 、西庄京子、片岡和三郎、内田享弘、市川厚
33. 健常人女性における血清中ステロイドホルモン濃度に及ぼすMDR1遺伝	共	2008年7月	医療薬学フォーラム2008	中村任、岡村昇、八木麻理子、大松秀明、山森元博、 <u>栞原晶子</u> 、西口工司、堀之内正則、奥村勝彦、柴田敏之
34. 外来化学療法室における患者指導への取り組み	共	2008年02月	第29回日本病院薬剤師会近畿学術大会	花房加奈恵、門脇祐子、 <u>栞原晶子</u> 、角本幹夫、和田敦、角山香織、榎本博雄、西口工司、井上容子、西村善弘、平井みどり
35. 抗がん剤レジメンの評価指標作成に関する検討	共	2007年09月	第17回日本医療薬学会年会	五百蔵武士、 <u>栞原晶子</u> 、石田奈緒、大樹璃実、榎本博雄、西口工司、平井みどり 抗がん剤レジメンの妥当性を評価するための指標が確立していないため、さまざまな資料等を用いて作成した評価指標に関する検討結果を報告した。
36. 食道がん化学放射線療法における病期、奏効と予後との相関	共	2007年09月	第17回日本医療薬学会年会	<u>栞原晶子</u> 、山森元博、榎本博雄、西口工司、八木敬子、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、柴田敏之 化学放射線療法（FP+RT療法）を施行された進行性の食道がん患者

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
37. 食道がん化学放射線療法における5-FU血漿中濃度と治療効果との相関	共	2007年07月	第24回日本TDM学会・学術大会	51例について、病期、治療効果および予後の関係を解析した。51例の奏効率（著効率と有効率の和）は80.4%であり、奏効率は病期に依存しなかった。一方、予後は病期に依存しており（ $p = 0.013$ ）、2年生存率は、Stage I/IIで70%を超えているものの、Stage III/IVでは30%未満に過ぎなかった。なお、予後は著効例と非著効例で大きく異なっていた（ $p 0.0001$ ）。 桑原晶子、山森元博、門脇祐子、榎本博雄、西口工司、奥野達哉、茶屋原菜穂子、三木生也、田村孝雄、平井みどり、栄田敏之 化学放射線療法（FP+RT療法）を施行された食道がん患者30例を対象とし、5-FU血漿中濃度と治療効果との関係について検討を行った。その結果、CRである症例、2年生存できた症例において、平均血漿中濃度が高い傾向にあった。また、生存・非生存の指標となる5-FU血漿中濃度レベルを示すには至らなかったものの、FP+RT療法において、5-FU血漿中濃度レベルが生存・非生存の指標となる可能性が示された。
38. 注射用抗がん剤の表示量と実容量の違いについて	共	2006年10月	第16回日本医療薬学会年会	大樹瑞実、桑原晶子、五百蔵武士、山森元博、榎本博雄、西口工司、奥村勝彦、栄田敏之 注射剤は調製作業が簡便に行えるよう一般的には表示量よりやや過量に充填されており抗がん剤においても例外ではない。がん化学療法では厳密な投与量管理が必要であり表示量と実容量の違いの程度を把握したうえで調製作業を行う必要がある。そこで、IF等への記載内容を調査するとともに、一部の薬品について表示量との偏差を実測した。
39. 老年内科における痴呆性高齢者のクリニカルパスと薬剤師の関わり	共	2004年1月	第25回日本病院薬剤師会近畿学術大会	谷口知郷、藤岡梨恵、山下和彦、桑原晶子、西口工司、西庄京子、栄田敏之、櫻井孝、横野浩一、奥村勝彦
40. 服薬指導の標準化に関する研究（4）泌尿器科におけるM-VAC療法を中心に	共	2003年9月	第13回日本医療薬学会年会	岡崎円香、山下和彦、桑原晶子、西口工司、西庄京子、栄田敏之、奥村勝彦
41. 服薬指導の標準化に関する研究（3）心臓血管外科病棟における服薬指導を中心に	共	2003年09月	第13回日本医療薬学会年会	村主薫里、山下和彦、桑原晶子、西口工司、西庄京子、栄田敏之、奥村勝彦 心臓血管外科病棟における服薬指導を効率的に実施する目的で、入院患者の治療方法を調査・分類し、主な治療方法に対して「指導計画チェックシート」を作成することにより、業務内容の標準化を試みた結果を報告。
42. 服薬指導の標準化に関する研究（2）拡張型心筋症患者に対する服薬指導	共	2003年09月	第13回日本医療薬学会年会	大本暢子、若山香菜、桑原晶子、西口工司、西庄京子、栄田敏之、奥村勝彦 薬剤師の経験に依存することなく全ての患者に効率よく良質な服薬指導を提供することを目的とし、治療経過に応じた「指導計画チェックシート」を作成し、拡張型心筋症患者のβ遮断薬治療に対する業務の標準化を試みた結果を報告。
43. 服薬指導の標準化に関する研究（1）乳癌術後補助化学療法を中心に	共	2003年09月	第13回日本医療薬学会年会	山下和彦、桑原晶子、西口工司、西庄京子、栄田敏之、奥村勝彦 服薬指導における質の向上・効率化を目的とし、乳癌術後化学療法の患者を対象として、治療経過に応じた指導内容と確認事項の統一を目的とした「指導計画チェックシート」を作成し、業務の標準化を試みた結果を報告。
44. 入院患者の服薬コンプライアンス向上を目指したおくり説明書の作成と運用	共	2002年10月	第12回日本医療薬学会年会	西口工司、山下和彦、大本暢子、桑原晶子、松林照久、西庄京子、栄田敏之、奥村勝彦
45. 医薬品適正使用を目指した入院処方チェックシステムの実施とその評価	共	1998年1月	第19回日本病院薬剤師会近畿学術大会	桑原晶子、原田順子、藤井佐登子、立花禮子、駒田富佐夫、松林照久、西庄京子、谷川原祐介、奥村勝彦
3. 総説				
1. 食道がん化学放射線療法の個別化	共	2008年12月	医薬ジャーナル社、医薬ジャーナ	pp. 2797-2803 栄田敏之、山森元博、桑原晶子、西口工司

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
2. 点眼剤のファーマシューティカルケア	共	2002年12月	ル44(12) じほう、月刊薬事44(12)	pp. 2323-2330 谷藤亜希子、 <u>栁原晶子</u> 、奥村勝彦
3. 視覚障害をもつ患者への服薬指導	共	2001年5月	じほう、月刊薬事43(5)	pp. 1051-1055 <u>栁原晶子</u> 、濱名則子、奥村勝彦
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 薬学教育（薬剤師養成課程）におけるOSCE・CBT	単	2025年8月30日	第19回日本診療放射線学教育学会学術集会 大会長企画2「多職種におけるOSCE・CBTの実践」	<u>栁原晶子</u>
2. 薬学部6年制実務実習・本学における薬学教育	単	2011年10月	第55回ファーマシューティカル・ケア研究会	<u>栁原晶子</u>
3. 特徴的な実務研修例、文部科学省委託費：薬学教育における現状と課題に関する課題研究「新制度薬学教育における実務家教員のキャリア支援の方策の確立」	単	2011年2月	文部科学省委託費研修会	<u>栁原晶子</u>
4. 抗がん剤血漿中濃度測定に基づく食道がん化学放射線療法の適正化	単	2007年3月	兵庫県病院薬剤師会平成18年度第2回実務研修会（摂丹・但馬地区）	<u>栁原晶子</u>
5. インフォームド・コンセントでの問題点～薬剤師の立場から～	単	2001年10月	第4回兵庫医療情報研究会	<u>栁原晶子</u>
6. 眼科病棟における服薬指導	単	1999年7月	キサラタン発売記念講演会	<u>栁原晶子</u>
7. 医薬品適正使用をめざした入院処方チェックシステムの実施とその評価	単	1998年10月	兵庫県病院薬剤師会平成10年度第1回実務研修会（阪神・播磨地区）	<u>栁原晶子</u>
6. 研究費の取得状況				
1. 科学研究費補助金（奨励研究） 新規	単	2002年		医療過誤防止と業務効率化を目的とした薬剤管理指導記録のデータベース化
学会及び社会における活動等				
年月日		事項		
1. 2015年2月～2023年3月31日		日本医療薬学会代議員		
2. 2008年～現在		日本アプライド・セラピューティクス（実践薬物治療）学会評議員		